

認知臨床心理学： イントロダクション

丹野義彦

東京大学総合文化研究科



認知臨床心理学の対象・理論・方法

対象

- ①抑うつ
- ②不安障害
- ③統合失調症

理論

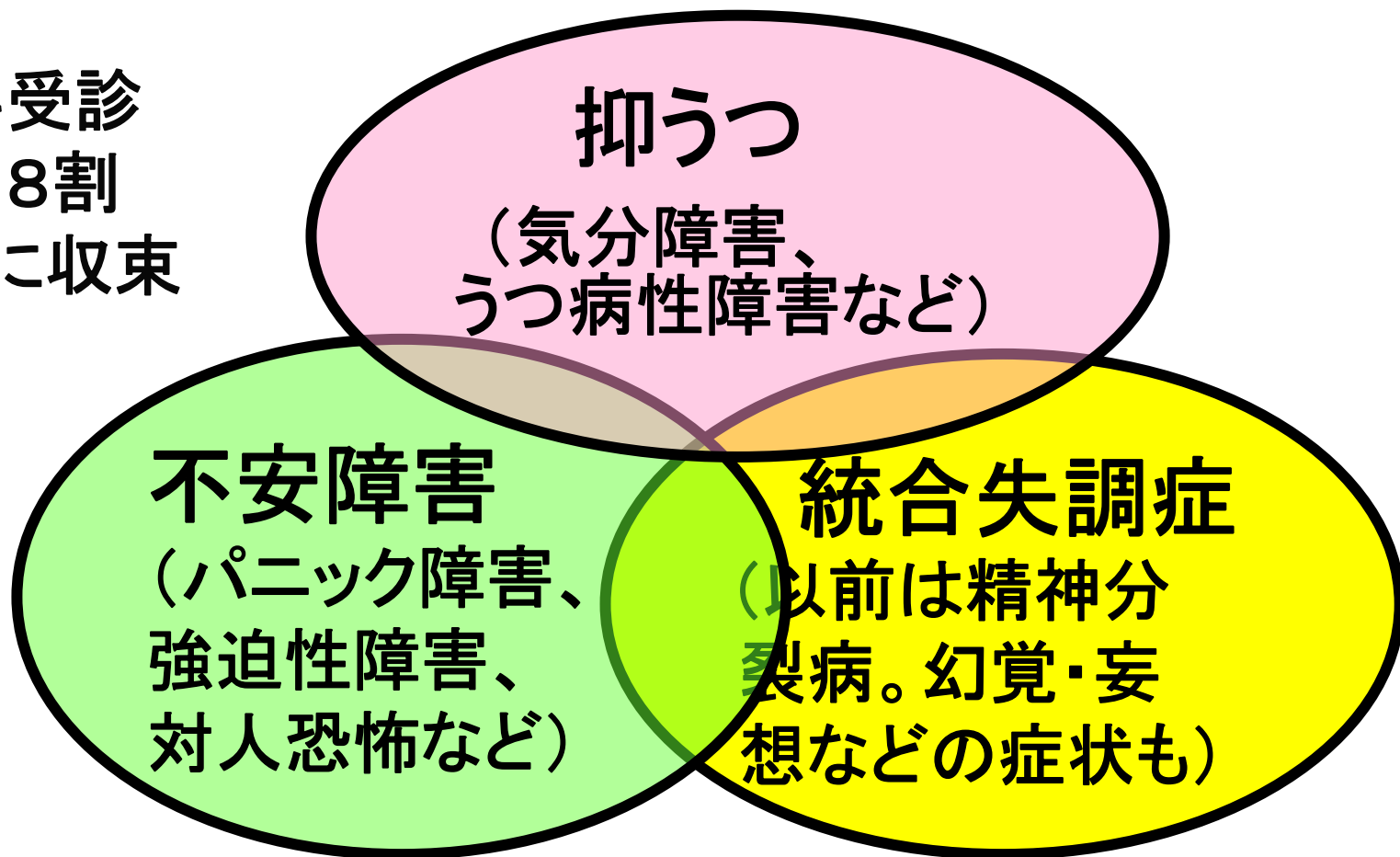
- ①認知行動理論
- ②社会心理学理論
- ③心理学理論

方法

- ①質問紙法＋統計分析
- ②面接法
- ③実験法

三大精神病理

精神科受診
成人の8割
は3つに収束



●心理的問題のいろいろ

外因性精神障害・・・**脳に原因があることが明確**

例)薬物やアルコールによる障害

器質性精神障害 例)脳損傷による失語症

内因性精神障害・・・**脳に原因があるが、詳細は不明**

endogeneous 統合失調症 と 躁うつ病

心因性精神障害・・・**心(ストレスや性格)に原因がある**

主観面—神経症(不安・恐怖・強迫)

身体面—心身症・心気・転換症状

行動面—攻撃行動、衝動行動、無気力行動

精神医学

司法精神医学

Mの精神鑑定

外因性

内因性

心因性(多重人格など)

人格障害(性格の偏り)

正常

統合失調症
躁うつ病

心神喪失
責任能力なし
⇒無罪

心神耗弱
責任減少
⇒有罪・減刑

責任能力
あり
⇒有罪

②中安鑑定
統合失調症説
⇒弁護側

②内沼・
関根鑑定
多重人格説

①保崎鑑定
人格障害説
⇒検察側

→地裁の判決

精神障害の診断基準

DSM-IV

Diagnostic and Statistical Manual for Mental Disorder, IVth Edition

「精神障害の分類と診断の手引 第4版」

(アメリカ精神医学会が1994年に作成)

ICD-10

International Classification of Diseases, 10th Edition

「第10次国際疾病分類」

(世界保健機構WHOが1992年に作成)

●DSMの特徴

1. 精神障害全体をカバー(200以上)
2. 明確で操作的な基準。
→臨床家のコミュニケーションの道具
3. 多軸診断システム。一人5次元から診断
 - 第1軸:臨床症候群(最も重要)
 - 第2軸:人格障害
 - 第3軸:身体疾患
 - 第4軸:心理的社会的ストレスの強さ
 - 第5軸:過去1年の生活適応度

●DSMの長所

精神障害全体を網羅—小カテゴリー—400以上

操作的基準, 信頼性を高める努力

—誰が診断しても同じ結論

⇒臨床家の世界的共通言語に

●DSMへの批判

文化が反映せず 例)アパシー性人格障害

分裂病の症状把握が平板 例)自我障害の無視

成人の臨床心理学の対象

診断基準DSM

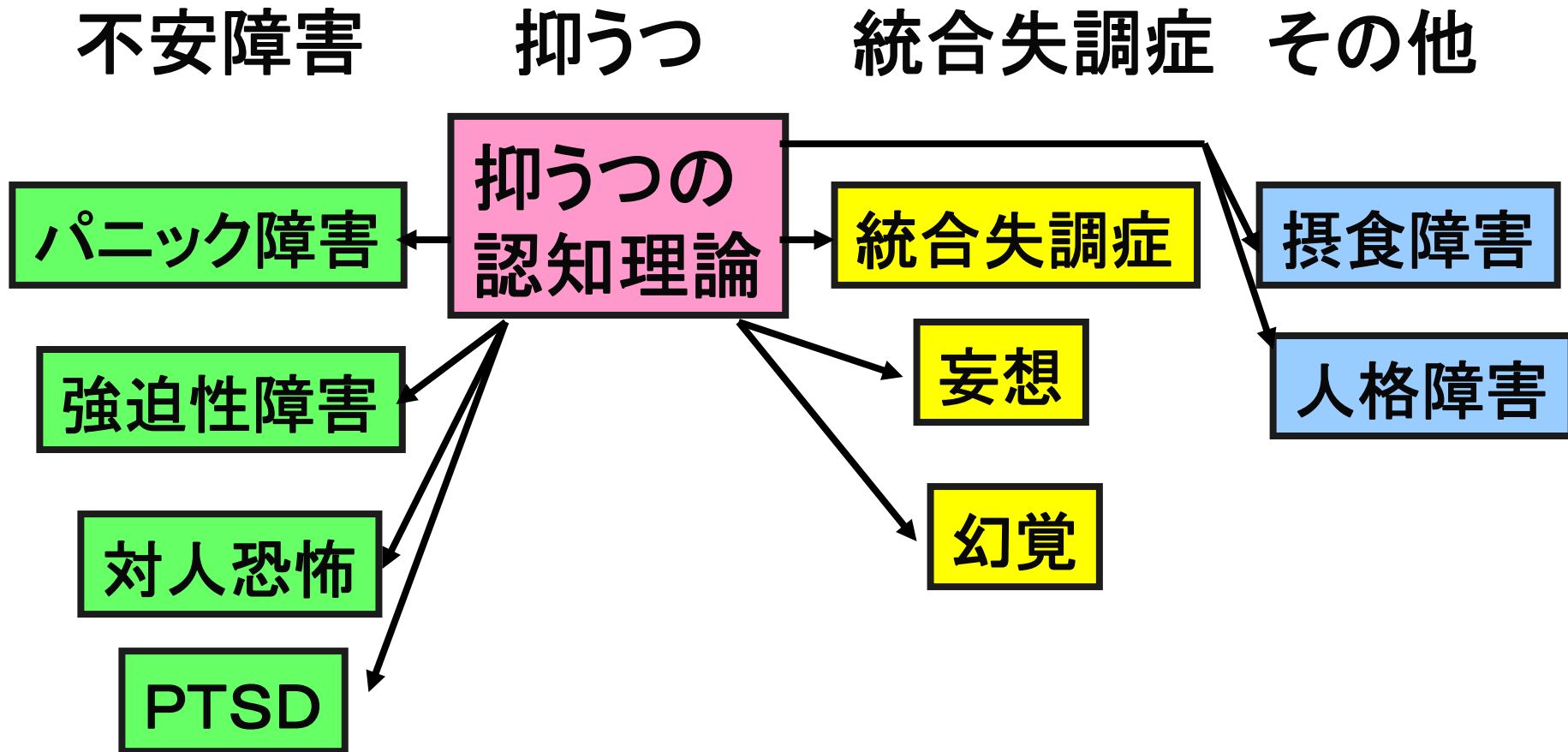
精神科での割合

抑うつ	感情障害	27.9%
不安	不安障害	14.1%
	身体表現性障害	10.0%
	解離性障害	0.5%
統合失調症	統合失調症	16.4%
	妄想性障害	3.2%
	他の精神病性障害	8.6%
小計		80.7%
その他	幼児期の障害	0.9%
	器質性精神障害	5.4%
	物質常用障害	2.8%

これまでの臨床心理学の見取り図

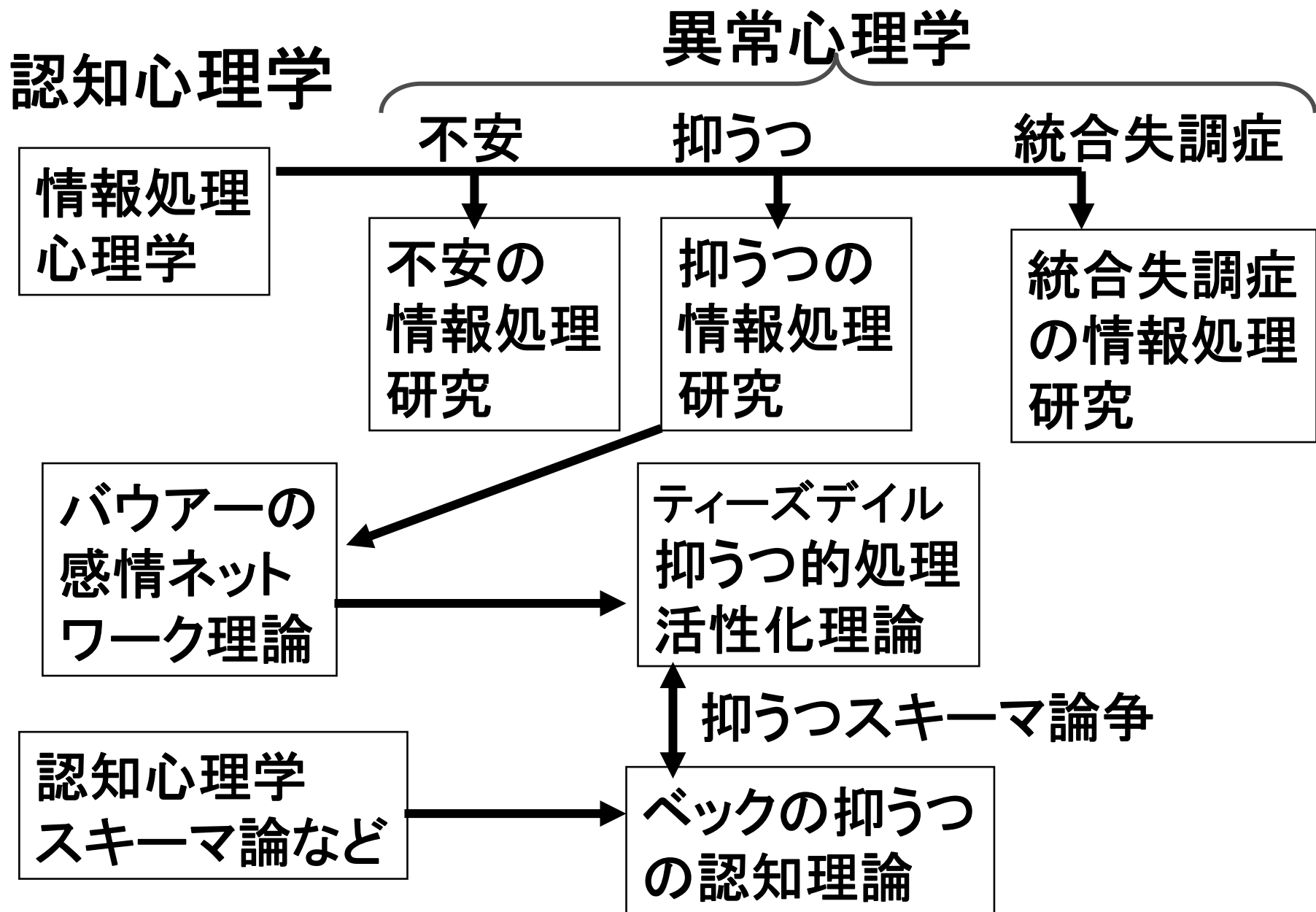
		心理的治療	アセスメント	異常心理学
精神医学	クレピン ブロイラー クレッチマー	指示的療法 と薬物療法	面接法 症状評価 質問紙	生物学的疾患論 記述精神病理学
精神分析	ユング フロイト アドラー エリクソン ロールハッハ	分析的心理学 精神分析療法 個人心理学	投射法	分析的心理学 精神分析理論 個人心理学 発達危機理論
臨床心理学	マレー キャッテル アイゼンク ロジャース	行動療法 来談者中心療法	因子論 質問紙	行動病理学 自己理論
	ベック	認知行動療法	質問紙法	認知病理学

認知行動理論





認知心理学と異常心理学のインターフェース



社会心理学

異常心理学

自己意識理論

客体的自覚理論
コントロール理論
公的・私的
自己意識
自己注目理論
他者意識理論

不安

対人不安の
自己提示理論
シャイネス理論
SREF理論
など

抑うつ

自己注目
スタイル理論
抑うつの
3段階モデル
など

統合失調症

妄想の公的
自己意識理論
自己標的理論
自我障害の
内在他者理論
など



基礎心理学とのインターフェースから生まれた異常心理学

基礎心理学

異常心理学

抑うつ

統合失調症

行動理論

抑うつの行動理論

ストレス
の生理学

学習性無力感理論

原因帰属理論

改訂学習性無力感理論

妄想の
帰属理論

抑うつ
リアリズム

素因ストレスモデル

社会的幻想

絶望感理論

③ 基礎心理学と臨床心理学実践の インターフェース

認知心理学

行動心理学

社会心理学

人格心理学

ストレス心理学

進化心理学

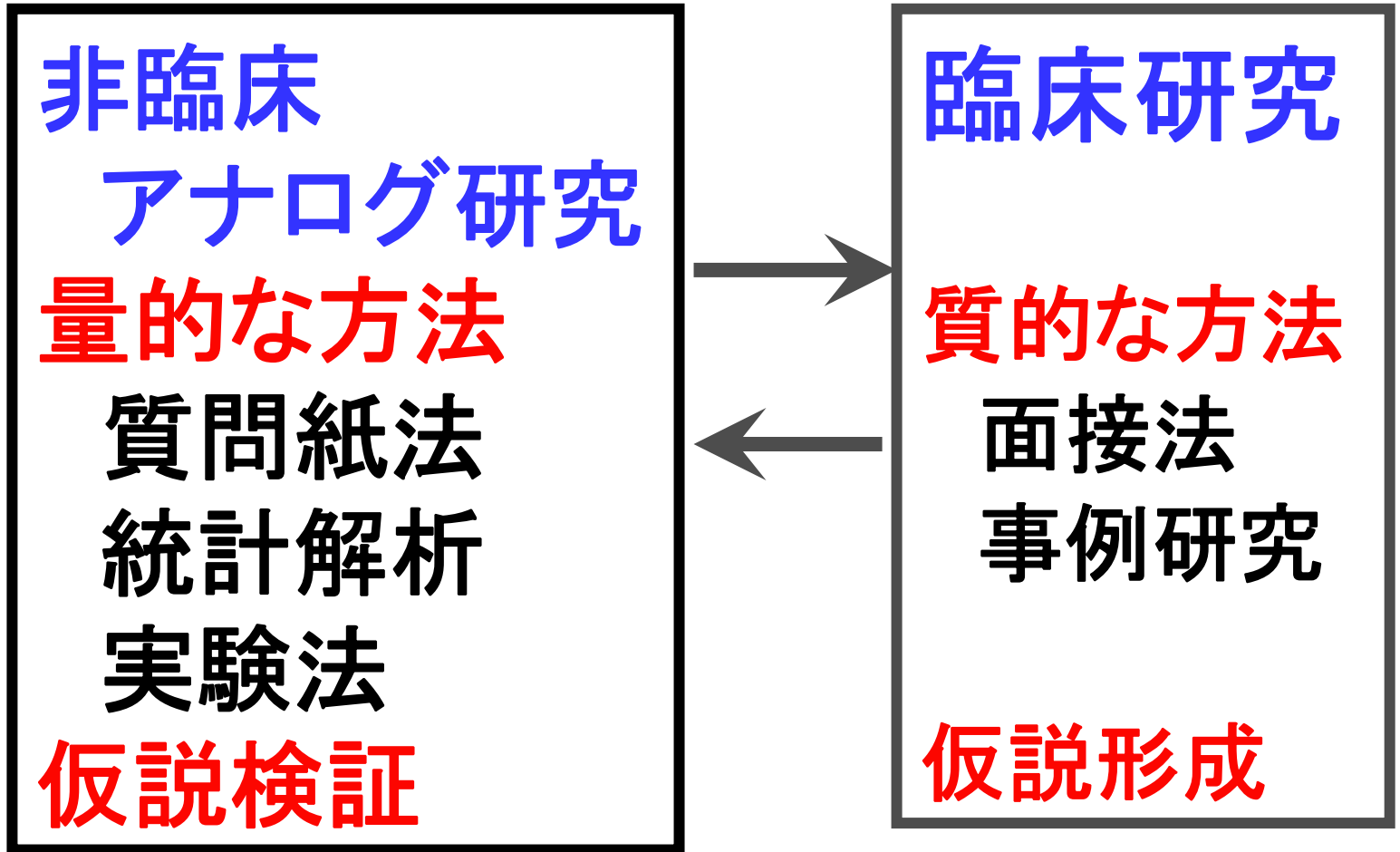
生物学的心理学

異常心理学
臨床心理学

臨床
実践

新しい研究が
次々と……

研究の方法論



駒場キャンパスの強み



臨床心理学の研究のステップ

アセスメント研究 1) アセスメントツール開発
2) 症状記述と比較症状論

異常心理学研究 3) メカニズム研究
4) パーソナリティ研究
5) 素因ストレスモデル
6) 発生予測と予防

治療介入研究 7) 治療過程研究
8) 治療効果研究



■丹野義彦 メール ctan@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/tanno/>

■教科書

『講座臨床心理学3 異常心理学Ⅰ』

『講座臨床心理学4 異常心理学Ⅱ』

下山晴彦・丹野義彦編 東京大学出版会

■参考文献

『エビデンス臨床心理学』(丹野義彦/日本評論社)

『認知臨床心理学入門』(ドライデンら/東大出版会)

『認知行動療法の臨床ワークショップ』(丹野編/金子書房)

『性格の心理学』(丹野/サイエンス社)

『叢書実証にもとづく臨床心理学/統合失調症の臨床心理学』

(横田・丹野・石垣/東大出版会)